



国際数理科学協会会報

No.42 / 2005.11

編集委員 藤井正俊（委員長） / 藤井淳一

目次

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| * 外国の機関会員の加入のための紹介のお願い | * 情報ネットワーク性能評価第7回研究会 |
| * 「日本学術会議協力学術研究団体」の指定 | * ICORP ライブ 2005（科学技術振興機構からの連絡） |
| * ISMS と特許 | * Biocomp 2005 |
| * 横幹より NPO 法人化の報告と協会の Catch Phrase | |

外国の機関会員の加入のための紹介のお願い

会長 井関清志

今年(2005年)7月1日付けで日本数理科学協会は国際数理科学協会に名称を変更し、一層の国際化をはかる事となりました。また一方で SCMJ 誌の交換誌の売先である大学の独法化の影響で、予算の大幅削減があり、交換誌収入が相当減ることが確実になっています。この収入減を cover する為に、従来 SCMJ 誌の購入の少なかった国で、経済が急速に伸びている、所謂 BRICS 諸国(Brazil, Russia, India, China, South Africa)に、SCMJ 誌購読の P.R.を始める必要が生じてきています。国際化の推進と、大学による購読増を同時に計る為に、「国際交流推進委員会」の同意を得て、機関会員制度を改正します。之は SCMJ 誌の継続購入と同時に、機関会員の研究者と協会の会員との研究交流も活発に出来るようにしようと言う事です。

改正案の骨子は、1校あたり2名以内の研究者を、機関内準会員として申請して頂き、その方には IVMS organizer としての研究集会の立ち上げや、運営(announcement, abstract の WWW 掲示)等、正会員と同じ仕事をして頂けるようにするという事です。大学への SCMJ 誌1部のほかに、機関内準会員に2部の Notices を送ります。

協会では現在、韓国、中国、インド、ロシアの P.R.先大学のリストを作り、WWW 上に発表し、P.R.文書を大学数学系教室宛に送る用意をしております。

皆様方はこれら4ヶ国には親しい方、知り合いの方がおられると思います。そこで当協会は彼等の所属している大学または研究所等が機関会員になっていただくといくつかのメリットがあり、そこに所属している会員はもとより、非会員の方にも研究の進展があると PR したいと思います。交流の際のメリットの1つは

(1) SCJM が外国の書店を通じて購入すると print 版 online 版合わせて\$520 であるが機関会員になっていただく print 版 online 版合わせて\$420 で購入できます。

(2) 研究集会でのメリット

(イ) 機関会員の中で国際研究集会を開きたいときはその旨お知らせ願えたら、全会員にお知らせし参加者を募ります。これによりどなたも海外に出かけることなく国際研究集会に参加できます。

(ロ) 必要であるならば abstract の WWW への発表等研究集会の下働きをお手伝いいたします。

もし紹介が可能であれば我々のホームページの「ISMS とは」の項に韓国、中国、インド、ロシアの機関名をいれてありますから、そこに先方の先生方のお名前お知らせいただけませんか。(ホームページの「ISMS とは」の中の「Membership」の中の「P.R.先」の「大学名」のところに、宛先教官名と、先生の御名前を入れて頂く Form を作っておりますので、Form に相手先教官名と先生の御名前を入れて頂き、送信ボタンを押して頂くと、宛先 Data は事務局に送られてくるようになっていきます。)もちろん、先生方より直接紹介していただくと、より効果的と思います。

なお、こちらよりは手紙で依頼したいと思います。ご協力をお願いいたします。

「日本学術会議協力学術団体」の指定

日本学術会議（黒川清会長）より下記の文書が来しました。要件だけ抜粋します。詳細は、当協会のWWW版または、<http://www.scj.go.jp> をご覧下さい。

<日本学術会議協力学術団体への移行措置に係るお願い>

前略

皆様ご存知のとおり、今回の改革における会員候補者の選考方法の見直しに伴い、登録学術研究団体の制度が廃止され、学術団体と日本学術会議の関係は、法律の上では記載が無くなりました。しかし、学術研究団体は、科学者コミュニティの基本的な組織であるのみならず、日本学術会議が今後提言機能を始めたその活動を充実強化するために、ご協力を求めることが不可欠な存在です。そのため、新体制におきましては、「日本学術会議会則」及び「日本学術会議協力学術研究団体規程」において「**日本学術会議協力学術研究団体**」という制度を設け、従来から築いてきた学術研究団体との協力関係を、公的で対等な協働関係として発展させることを目指すことといたしました。

中略

元日本学術会議登録学術団体の皆様方には、以上のような趣旨に鑑み、是非、「日本学術会議協力学術団体」となって、日本学術会議と共に科学者に期待される社会的責任を果たしていくという役割を担っていただきたいと存じます。貴学術研究団体として御賛同いただければ、別紙様式により必要事項を御記入された文書を作成の上、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、10月31日までに御返送いただきたく、お願い申し上げます。

ISMS は以下のように日本学術会議協力学術研究団体として10月27日申し込みを行いました。

日本学術会議協力学術研究団体申込書

平成 17 年 10 月 27 日

日本学術会議の活動に協力する学術団体となるため、下記により申し込みます。

記

1：名称 国際数理科学協会（こくさいすうりががくきょうかい）（注1）

International Society for Mathematical Sciences

2：代表者 会長 井関清志 神戸大学名誉教授

3：設立年月日 昭和 51 年 4 月 1 日

4：個人会員である構成員の数（学部生を除く。）405 人（男 387 人 女 18 人）

5：理事等の役員数及び男女別人数 18 人（男 16 人 女 2 人）

6：活動状況

（1）機関誌（Scientiae Mathematicae Japonicae）1948 年 1 月 1 日創刊 年 6 回発行

- (2) 会合 年次大会 (年 1 回) 研究集会 (年数回)
- (3) その他 Scientiae Mathematicae (Online) (年 6 回)、
Notices (年 6 回、年 96 頁、400 部/回)
国際数理科学協会会報 (年 6 回、年 72 頁、400 部/回)
国際数理科学国際賞 (年 1 件以内)、国際数理科学学術賞 (年 2 件以内)
国際数理科学協会清水賞 (年 2 件以内)

7 : 連合体への加盟状況

- (1) 国内 : 横断型基幹科学技術研究団体連合
- (2) 国外 (Reciprocity Agreement の締結) :
ヨーロッパ数学会 European Mathematical Soc.(EMS) フィンランド(2003 年 ~)、オーストラリア数学会 The Australian Math. Soc.(2003 年 ~)、ポーランド数学会(2003 年 ~) Polish Math. Soc.

8 : 事務所 (事務局) (現行所在地)

この項省略

(注 1) : 日本数理科学協会は研究集会、研究論文の発行などの学術活動の国際化を図るため、その会名を平成 17 年 7 月 1 日付、国際数理科学協会と改めました。国際数理科学協会は日本数理科学協会を継続するものです。(関係書類を送付します)

ISMS と特許

特許庁から「指定学術団体の活動状況の調査」が来ており、調査の資料を提出しました。又、協会名の改名を 2005 年 7 月 1 日付行いましたので、国際数理科学協会の会則 (会報 38 号記載) を添付しました。猶、特許の対象は、「貴団体が開設する学術講演会、講習、シンポジウム等の研究集会において、原稿、図面などの文書 (以下「文書等」という。) をもって発表された発明又は考案について、当該発表者又はその継承人 (当該特許又は実用新案登録を受ける権利を継承した者) から特許法第 30 条第 1 項 (実用新案法第 11 条第 11 項において準拠する場合を含む。) の規程の適用を受けるための証明書」であり、これを協会に求められたとき、協会はすみやかに、「事実に基づいて証明書を発行する」事になっています。利用される方は、その旨御連絡下さい。

横幹より NPO 法人化の報告と協会の Catch Phrase

横断型基幹科学技術研究団体連合からの(1)NPO 法人化報告および提言、(2)第 1 回横幹連合コンファレンスのタイムスケジュール、講演プログラムについて、ISMS ホームページ上に掲載いたしました。会長懇談会等に関するお願いの b 項のキャッチフレーズを、下記のように届けました。

For the Welfare of the Humankind Promoting Mathematical Sciences

詳細は、ISMS ホームページ (http://jams.or.jp/isms_top_j.html) をご覧下さい。

- 1 . NPO 法人化についてのご報告
横幹連合は、2005 年 10 月 14 日付けで NPO 法人 (特定非営利活動法人) となりました。
- 2 . 第 1 回横幹連合コンファレンスのタイムスケジュール、講演プログラムは、横幹連合ホームページ (<http://www.trasft.jp/>) からご覧いただけます。

日本OR学会関西支部「情報ネットワーク性能評価」研究部会・甲南大学知的情報通信研究所共催 第七回研究会開催のご案内

日本OR学会関西支部「情報ネットワーク性能評価」研究部会
・甲南大学知的情報通信研究所共催 第七回研究会開催のご案内
2005年11月10日

下記の通り、第7回目の研究会を株式会社CSKシステムズのご協力により開催致します。多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。恐れ入りますが、ご参加の有無をwww案内文最後掲載の所定フォーマットにて11月30日までにE-mail:yoneyama@shse.u-hyogo.ac.jpへ、ご返信下さい。

主査 岳 五一
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1
甲南大学 理工学部
情報システム工学科
TEL: 078-435-2530
FAX: 078-452-5507
E-mail: yue@konan-u.ac.jp

幹事 米山 寛二
〒670-0092 姫路市新在家本町 1-1-12
兵庫県立大学 環境人間学部
環境情報コース
TEL&FAX: 0792-92-9362
E-mail: yoneyama@shse.u-hyogo.ac.jp

- 記 -

日時：2005年12月6日(火) 15:00～17:30
場所：(株)CSKシステムズ SPACE_1301
住所：〒541-0041 大阪市中央区北浜 1-8-16 大阪証券取引所ビル 13F
代表 TEL: 06-6223-8800
アクセス：地下鉄・京阪本線「北浜駅」直結、
地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」地下道で直結約500m 徒歩7分
大阪証券取引所ビルの地図は<http://www.csk.com/systems/corp/base/nishinihon.html> です。

講演題目と講師：

(1) 「グリッド環境における高速ネットワーク技術」

馬場健一 (大阪大学大学院情報科学研究科)

(概要) 近年、グリッドコンピューティングに対する期待が高まっている。グリッドコンピューティングは、広域に分散した計算機や観測機器等をネットワークを利用して統合的に接続し、大規模計算や大規模データ処理等を行うための技術である。これらの環境を確立するために、特に重要となる高速ネットワークに関する技術動向について述べる。中でも高速転送プロトコルと光ネットワークの活用について述べ、さらにグリッド環境を構築する、あるいはそのための技術開発を行うさまざまなプロジェクトについても触れる。

(2) 「ポアソン到着の待ち行列における過渡客数分布の数値計算手法について」

増山博之 (京都大学大学院情報学研究科)

(概要) 一般に、初期状態の影響が残る過渡状態での待ち行列解析は難しく、単純なポアソン到着の待ち行列であっても、その過渡客数分布に対する陽表現の導出過程は非常に複雑で、得られる結果も数値計算に適

しているとは言い難い。本講演では、M/M/1 及び M/D/1 待ち行列に対して、その過渡客数分布の陽表現ではなく、それを構成する再帰式を基に、数値的な安定性と事前の精度保証という優れた性質を持つ数値計算手法について述べる。

また、研究会終了後、講師の先生を囲んで大阪証券取引所近くの「酒・肴・米 北浜ひな」
<http://r.gnavi.co.jp/k440001/> TEL: 06-6202-5252 にて、忘年会を行います。(会費は一般4,000円、学生3,000円)。なお、次の研究会は2006年2月28日に開催予定です。

以上

*〒670-0092 姫路市新在家本町 1-1-12 *兵庫県立大学 環境人間学部 *環境情報コース 米山寛二

*TEL&FAX : 0792-92-9362 *E-mail : yoneyama@shse.u-hyogo.ac.jp

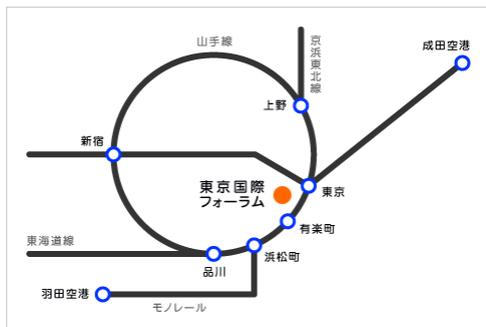
ICORP ライブ 2005 (科学技術振興機構からの連絡)

独立行政法人 科学技術振興機構 戦略的創造事業本部 特別プロジェクト推進室 室長 佐藤雅之さんから、下記の ICORP ライブ 2005 の案内が来ています。

戦略的創造研究推進事業で実施している ICORP 型研究 (国際共同研究) は、優れた研究成果を生みだした日本国の研究者に、日本側の研究プロジェクトの総指揮を委ね、海外の研究機関と国際共同研究の形で先進的な研究を推進しています。今年から始まります「ICORP ライブ 2005」は、現在進行中の9プロジェクトについて、研究成果を皆様にご報告するための報告会です。各プロジェクトとも、趣向を凝らした展示を行い、親しみやすい報告会を目指しています。ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご来臨賜りたくご案内申し上げます。

<日時> 2005年12月14日(水) 10:00~17:30 [入場無料]

<会場へのご案内> 有楽町駅より徒歩1分 「東京国際フォーラム B 棟 5 階:ホール B5」



BIOCOMP2005: Diffusion Processes in Neurobiology and Sub cellular Biology

December 12-16, 2005, Hotel Lloyd's Baia, Vietri sul Mare (Amalfi Coast), Italy

Web: www.biocomp2005.unina.it

E-mail: BIOCOMP2005@unina.it

Under the high patronage of Universita' di Napoli Federico II

A program of invited lectures, selected contributed papers and round table discussions. Topics are centered on information processing and coding in neuronal systems and on molecular motors. Some invited talks will also focus on current problems in various other areas of applications of mathematics to life sciences and a "not to forget" session will be devoted to revisiting the origin of modern biomathematics, computation and information science as stemming from the pioneering work of Norbert Wiener, Warren McCulloch, Claude Shannon, and of other fathers of Cybernetics and of its related areas.

CHAIR: Prof. Luigi M. Ricciardi, Dipartimento di Matematica e Applicazioni, Universita' di Napoli Federico II, Via Cintia, 80126 Napoli, Italy E-mail: BIOCOMP2005@unina.it

SCIENTIFIC COMMITTEE

P. Cull (USA), T. Ishihara (Japan), P. Lánský (Czech Republic), Z. Ma (China), J. Mira Mira (Spain), R. Moreno Diaz (Spain), F. Moss (USA), K. Nakagawa (Italy), F. Oosawa (Japan), F. Pichler (Austria), S. Sato (Japan), J.P. Segundo (USA), C. E. Smith (USA), L. M. Ricciardi (Italy), J. Rinzel (USA), T. Yanagida (Japan)

INVITED SPEAKERS

K. Aihara (Japan), R.D. Astumian (USA), M. Bier (USA), R. Borisyuk (UK), E.N. Brown (USA), D.R. Chialvo (USA), O. Diekmann (The Netherlands), G.B. Ermentrout (USA), P. Hänggi (Germany), T. Hida (Japan), M. Holcombe (UK), F. Hoppensteadt (USA), H. Hotani (Japan), Y. Ishii (Japan), M. Mimura (Japan), R. Moreno Diaz Jr (Spain), F. Moss (USA), T. Nomura (Japan), F. Oosawa (Japan), P. Reimann (Germany), M. Sato (Japan), L. Schimansky-Geier (Germany), S. Schuster (Germany), Z.S. Siwy (USA), P. Talkner (Germany), T.Y. Tsong (Taiwan), H.C. Tuckwell (Germany), M. Ueda (Japan), S. Usui (Japan), T. Yanagida (Japan)

CONFERENCE VENUE: Hotel Lloyd's Baia, Vietri sul Mare (Amalfi Coast), Salerno, Italy

REGISTRATIONS: Online at <http://biocomp.unina.it/>. (No registration fee for accompanying persons):

EURO 250 if received before September 30, 2005;

EURO 350 if received between October 1 and November 10, 2005

EURO 450 if by cash upon arrival:

(1 Euro = 1.21 USD, exchange rate on July 14, 2005)

HOTEL RESERVATIONS: Participants are expected to make their own hotel reservations. A limited number of rooms are available on a first-come-first-serve basis at Lloyd's Baia Hotel (Best Western 4-star hotel) where the Conference will be held. The hotel management has agreed to the following discounted rates:

Daily rates, per person, including half-board treatment (i.e. breakfast and dinner):

- a. Double/Twin room Euro 87
- b. Double room, single use Euro 115
- c. Triple room Euro 75
- d. Single extra meal Euro 15

(1 Euro = 1.21 USD, exchange rate on July 14, 2005)

FOR RESERVATIONS AT LLOYD'S BAI HOTEL: send your requests to lloyd.baia@tiscali.it, with Cc to BIOCOMP2005@unina.it, Subject "BIOCOMP2005 - Hotel reservation". Please, indicate arrival and departure dates, type of desired accommodation and credit card information. If you prefer, credit card information can be faxed to Dr. Maria Longobardi (+39-081-675665). You will receive a confirmation by email.

ORGANIZING INSTITUTIONS

Dipartimento di Matematica e Applicazioni "Renato Caccioppoli" dell'Università • di Napoli Federico II

Dipartimento di Matematica e Informatica dell'Università • di Salerno

Istituto di Alti Studi Scientifici (I.I.A.S.S.), Vietri sul Mare

Istituto Italiano per gli Studi Filosofici

Under the high patronage of Università • di Napoli Federico II

SPONSORS

Accademia di Scienze Fisiche e Matematiche della Societ • Nazionale di Lettere, Scienze ed Arti,
Napoli

CNR, Istituto di Cibernetica "Eduardo Caianiello", Pozzuoli

CNR, Istituto di Biofisica (IBF)

GNCS-INdAM

Instituto Universitario de Ciencias y Tecnología Cibernéticas, Universidad de Las Palmas de Gran
Canaria

International Society for Mathematical Sciences (ISMS)

CONFERENCE VENUE

Hotel Lloyd's Baia, Vietri sul Mare (Amalfi Coast)

ISMS (JAMS の継続) 会員募集

ISMS の出版物：ISMS は、創刊より約 60 年、国際的に高い評価を得ている Mathematica Japonica(M.J.) と、その姉妹誌で電子 Journal と Paper 誌とを持つ、Scientiae Mathematicae(SCM)とを発行してきました。両誌は合併して、“21 世紀 MJ/SCM New Series Scientiae Mathematicae Japonicae (SCMJ)”として、電子版は 2000 年 9 月より発行してきました。印刷版は、1978 年 1 月より、年間 6 冊、700～1200 頁を出版しています。全体として 230 巻を超える、日本で最大量を誇る数理科学の雑誌です。その特長は、下の 1)～11)です。

- 1) Editorial Board には、国内だけでなく、海外 15 カ国の著名な研究者 40 名が参加している。
- 2) 世界の research group に論文が紹介され、積極的な交流が推進されている。
- 3) Editor を窓口として直接論文を投稿できて、迅速な referee、及び出版が得られる。
- 4) 世界各国の図書館へ、広く配布されている。
- 5) 有名な数理科学者の original paper や、研究に役立つ survey が、毎号載せられている。
- 6) SCMJ は、世界の有名数理科学者による、極めて興味ある expository paper を、毎号 International Plaza 欄に掲載している。
- 7) 投稿論文は、accept 後(又は組版後) 待ち時間 0 で発行されます。
- 8) ISMS の研究集会：研究仲間がゆっくり時間をかけて発表、討論をする、特色ある研究集会が毎年行われ、非会員も含む多数の参加者の、活発な研究交流の場となっている。
- 9) 海外に出かける必要なく、Online での遠隔国際研究集会に参加できる。
- 10) ISMS 学術賞、清水賞の受賞講演等、最近の研究 frontier の presentation が行われている。
- 11) Mathematical Review, Zentralblatt に review されている。

< ISMS の会員の特典 > 1 . SCMJ 電子版の購読(print out も含む)無料、 2 . SCMJ print 版の少額での購読(下表 1)、 3 . Page charge の discount(下表 2)

表 1 [雑誌購読費]

	正会員 (1 年)	正会員 (3 年)	著者会員	機関購読会員	定価
Print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500* US\$ 55, €44	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 33,000 US\$ 300, €240	¥ 45,000 US\$ 400, €320
Online	Free	Free	¥ 6,000 US\$ 60, €48	/	/
On-line+print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500 US\$ 55, €44	¥ 9,000 US\$ 90, €72	¥ 45,000 US\$ 420, €336	¥ 57,000 US\$ 520, €416

*3 年会員のみ、雑誌購読費 3 年前払いの場合は ¥15,000 になります。

表 2 [ページチャージ]

		Member	Non Member
Paper	: P	¥ 3,850 (US\$ 35, €28)	¥ 4,450 (US\$ 43, €35)
Tex	: T	¥ 2,200 (US\$ 18, €14)	¥ 2,800 (US\$ 26, €21)
Js	: Js	¥ 1,100 (US\$ 8, €7)	¥ 1,700 (US\$ 16, €13)

表 3 今年度の会費は、次のようになります。

Categories	国内会員	海外会員	途上国会員
単年度 A 会員	¥7,000	US\$ 50, €40	US\$ 30, €24
3 年 A 会員	¥18,000	US\$ 120, €96	US\$ 70, €56
単年度 S 会員	¥3,500	US\$ 30, €24	US\$ 20, €16
3 年 S 会員	¥9,000	US\$ 70, €56	US\$ 50, €40
生涯会員**	¥70,000	US\$ 600, €480	US\$ 500, €400

**過去 10 年以上、正会員であった方に限る

但し、A 会員は正会員を指し、S 会員は、学生会員と高齢会員(70 歳以上)を指します。

国際数理科学協会

International Society for Mathematical Sciences

〒590-0075 堺市南花田口町 2-1-18 新堺東ビル内

Tel:(072)222-1850 / Fax:(072)222-7987

URL: <http://www.jams.or.jp>